鹿児島市立桜丘中学校
令和５年２月２４日

第11号

「親の心 子知る」

校長　上久保大介

今日は２月２４日です。**修了式**までちょうど１カ月。**卒業式**まで２週間余り。**公立高等学校入学者選抜学力検査**までは１週間を切りました。今年も喜んだり悲しんだり、楽しんだり悔しんだりしながら時は流れていきました。保護者の皆さまにおかれましても**子供と共に喜びや悲しみを分かち合った一年**だったのではないかと拝察します。私たち**教師も子供たちに教え、教えられ、保護者の皆さまからも多くの学びをいただいた一年**でした。人は、生涯学び続けるものだと言うことを実感しています。そのような人生の中でも、子供から大人に変わる**中学生の時期はもっとも不安で、つらい**ときなのかもしれません。それ故、時には**過ちを犯したり、自分の気持ちとは違う行動をしたり**して、**立ち止まってしまう**こともあるのではないかと思います。そのようなとき、**頼りになるのは保護者の皆さま**です。子供の気持ちに寄り添い、慰め、励まし、時には叱り、時には突き放すこともあったのではないでしょうか。しかし、それも全て**愛情があればこそ**です。

「親の心、子知らず」と申します。しかし、本当は**「親の心、子知る」**なのかもしれません。知っていても行動に表せないのが中学生なのだと考えると、保護者の皆さまの思いは報われるのではないでしょうか。**親の気持ちは子供には通じている**のだと私は思います。そして保護者の皆さまが子供たちにとって頼りになる存在であるのと同じように、私たち**教師も頼りになる存在でありたい**と願っています。とは言え、**「人を導く」ことは難しい**ものです。校長でありながら、このようなことを申し上げると不安に思われるかもしれませんが、「人を導くことは簡単だ。」と考えている人よりは、よっぽどましだと私は思っています。難しいからこそ、教師同士が手を取り合って、保護者とタッグを組んで、子供の成長のために取り組んでいけるような学校でありたいと願っています。子供が年月を積み重ね、振り返ったときに**「あの時、あの人が、あんなことを言ったのは、あんな思いがあったからなんだ。」**と気づく日が来ることを願っています。

今回で**３年生は最後の「学校だより」**となりました。稚拙な内容ではあったかもしれませんが，長い間ご愛読いただきまして**ありがとうございました。**あともう少しで卒業です。それまではもうしばらく指導していきます。そして，**卒業生が豊かな人生を送ってくれることを心から願っています。**